

2021 年度総会及び講演会

1. はじめに

5月28日(金)に行われました「第30回道央技術士委員会総会、講演会」について報告いたします。

開催日：令和3年5月28日(金)

開催方式：オンライン形式(Zoom)

時間：18:00～19:00

例年総会は、室蘭市または苫小牧市で交互に開催していましたが、昨今のコロナ禍の影響から今回はオンライン形式での開催となりました。

講演会は、北開工営株式会社門口貴美氏による【コロナ禍における「集合型イベント」から「非集合型イベント」への転換】という演題でご講演頂きました。

2. 講演会【オンラインを利用した「セルフウォークリレー」の発案～実施と今後の課題】

ご講演頂いた門口貴美氏は、ご自身のがん治療のご経験から、がん患者支援活動「リレー・フォー・ライフ」に参加されるようになり、苫小牧の実行委員を務められております。



講師 門口貴美氏

(1) RFL(リレー・フォー・ライフ)について

1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。

「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。

現在では世界約30ヶ国、約4,500カ所で開催され、年間寄付は300億円にのびります。

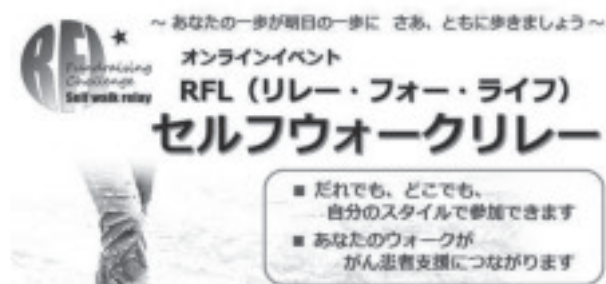
日本では2006年に初開催され、2019年度は全国48カ所・約61,000人が集いました。

北海道では、室蘭(2008年～)、苫小牧(2016年～)で開催しています。

(2) 非集合型イベントの発案から実現まで

門口氏は、ご自身の抗がん剤治療から感染予防のために長期間外出を自粛されていた時期があり、歩行に支障が出た事で「普通に歩ける事」の大切さを痛感され、昨今のコロナ感染対策・外出自粛により、同じような状態になる人が増えるのではないかと考えられたそうです。

コロナ蔓延前はRFLのイベントで多くの人と一緒に歩かれていましたが、イベント開催の延期、中止が相次いだ2020年の春に「今年はイベント開催が厳しいと思いますがみんなの気持ちはひとつです」との言葉を受け、「非集合型」のセルフウォークリレーを発案し、全国のリレー・フォー・ライフ実行委員会への声かけや歩数カウントアプリ開発企業



セルフウォークリレーについて



非集合型に

セルフウォークリレーの発案

をみつけて実現に至ったそうです。

2020年10月24日～11月23日に初のセルフウォークリレーが実施され、全国で2,006人の参加、合計歩数349,801,473歩、21,655,204円の寄付が集まったそうです。



セルフウォークリレー最終結果

門口氏の思いを実現する発想力、実行委員会までも巻き込み全国開催へと発展させた行動力の強さを感じることができました。

会員からも「コロナ禍(自粛)だから“出来ない”ではなく、何か出来ないか？どうやったら出来るか？を考えるのは会社や仕事においても大切な事だ」と、意見がありました。

(3) 今後の展開

今後は初回開催時以上に「つながる」イベントとして、一部の人、地域やグループに限られることなく「どこでも誰でも参加できる」イベントとして、今まで会場に来られなかった人でも「楽しみながら参加できる」イベントを目指していきたいとのことでした。

また、これまでは各実行委員会で任意で開催していた「セルフウォークリレー」ですが、今後は「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」の公式イベントとして毎年の実施が決まり、公益財団法人 日本対がん協会でも開催が決定されたとのことで2021年も9月18日～10月17日にかけ開催されました。

※ホームページのご紹介

①リレー・フォー・ライフ・ジャパン

<https://relayforlife.jp/>

②とまこまい実行委員会

<https://relayforlife.jp/tomakomai/>

③室蘭実行委員会

<https://rfljmuroran.jimdofree.com/>

3. 総会

(1) 議案

同会代表幹事 田中雄太氏より議案を諮り、全議案が滞りなく了承されました。

①事業計画

事務局より、2021年度の年間行事予定(見学会及び講演会)の説明と新規会員勧誘のお願い。

②技術研修会

技術研修会では、発表希望者が日々携わっている業務内容等を発表し、自己研鑽及び会員相互の交流を図ることを目的として実施しています。

技術研修会について発表者の募集と今後の研修会の実施方法について説明がありました。

(2) 来賓挨拶と報告

北海道本部事務局次長 長井智典氏より「技術士を巡る最近の動向」として、試験結果、統括本部からの話題及び北海道本部の動向についての報告。

特に第10期技術士分科会における「技術士制度改革に関する論点整理」の検討報告について「技術士の資質向上に関する継続研さん活動の実績の管理及び活用について(通知)」を詳しくご説明いただきました。

(3) 役員交代

長年、同会幹事を務められてこられた赤間英一氏、巻口義博氏から今年度バトンタッチする形で大西昌志氏と私(加藤)が幹事を引き継ぐこととなり、新旧幹事から挨拶がありました。

4. おわりに

新型コロナウイルスの猛威により対面での活動をするように行うことが難しい状況ではありますが、オンライン形式を積極的に取り入れ講演会や技術研修会の実施を予定しております。

これまで以上に地元の産学官各方面と連携し、技術の研鑽に励むとともに地域への貢献を推進していきたいと思っています。

末筆ではありますが、コロナ禍という近年まれに見る緊急事態の中、同会の幹事を拝命したこと非常に身の引き締まる思いですが、同会の発展、延いては日本技術士会、北海道本部の発展に寄与できるよう努めて参りたいと思います。